

2013 年日本医療薬学会学術年会 口頭発表 大刀洗店 石井美帆

そうごう薬局小郡中央店百枝、総合メディカル株式会社水口、久留米三井薬剤師会
白木秀和、医療法人社団シマダ嶋田病院 薬剤部下田亮、同看護部西岡恵子、
同 内科 赤司朋之、

小郡循環型糖尿病連携パスへの保険薬局の積極的参画

～地域全体の糖尿病療養指導の質向上を目指して～

【目的】

福岡県小郡・大刀洗地域は、人口7万人に対し糖尿病専門医が1名の地域であり、増え続ける糖尿病患者の診療全てに専門医が携わる事は困難である事から、「小郡循環型糖尿病連携パス」（以下連携パス）が構築され、多くの診療所と病院間の情報共有を行っている。しかし診療所のみで療養指導全てを行う事は困難であるため、薬局薬剤師が協働し、病院の糖尿病チームとも連携する取り組みを始めたので報告する。

【方法】

- 1) 保険薬局の療養指導への取り組み
 - A. 連携パスの病院-診療所間の申し込みに、薬局薬剤師が参加を開始
 - B. 申し込みに得られた情報を基に療養指導を行い、新たな問題点を糖尿病連携専門看護師（以下コーディネーター）を通じて病院と共有、アドバイスを受ける。
- 2) 病院糖尿病チームとの連携開始
 - A. 診療所内出張糖尿病教室に薬局薬剤師が講師として参加
 - B. 病院糖尿病チームとの薬薬連携会を提案
- 3) 病院、久留米三井薬剤師会との連携開始
地域保険薬局参加を呼びかけ、病院薬剤師、医師、看護師との「七夕薬薬ネットワーク」立ち上げへ

【結果】

現在、七夕薬薬ネットワークは、地域22薬局（81%）の参加があり、連絡会を定期的開催し、コーディネーター作成の療養指導パンフレットを地域薬局全体で配布して、食事・受診勧奨の指導を行う取り組み等が進んでいる。保険薬局の連携パスへの参加、病院・診療所との協働により、薬物療法のみならず、療養指導全般に地域全体で関わる機会を創出する事ができた。

【考察】

診療所のみで療養指導全てを行う事が困難という問題に対し、薬局薬剤師が積極介入する事で、地域保険薬局も一拠点とした新しい糖尿病療養指導の形を提案する事が出来た。「七夕薬薬ネットワーク」で定期的に症例検討や講義を実施し、今後地域全体でさらなる質の高い糖尿病療養指導を実践できるよう努めたい。

キーワード1: 地域連携パス

キーワード2: 薬薬連携

キーワード3: 糖尿病療養指導